

【令和5年度 和泉市ジェンダー平等教育推進モデル校 取組み報告】

研究主題:一人ひとりを大切にする教育

～「ジェンダー平等教育」に関する指導を通じて～

和泉市立国府小学校

人権教育年間教育の中で全学年の系統だったジェンダー平等教育の指導案を作

成し、以下の教材を活用して実施した。

1年生 『タンタンタンゴはパパふたり』

2年生 『王さまと王さま』

3年生 『くまのトーマスはおんなのこ』

4年生 『ちがいのちがい』

5年生 『いろいろな性ってなんだろう?』

6年生 『わたしたちの未来』

第4学年 男女平等教育

1. 題材名

女性の人権/男女共同参画 『ちがいのちがい』

2. 指導の目標

「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」について考えることをとおして、社会における「あってはいけないちがい」についての解決方法や対処の仕方について自分の考えをもち、実践する意識をもたせること。

3. 教材について

この時期の子どもたちの性役割についての認識は、それまでの職業や外見など外面的なステレオタイプの理解から、女/男らしさなど性格や特性という内面的な理解へと進み、さらに性差を意識するようになってくる。そこで、自分の内面や社会におけるジェンダー・バイアスに気づき、個性は女性、男性という性によって決まるものではないことを理解する学習とともに、「社会」の状況や女性の「権利」にも目を向けた学習を設定した。この「ちがいのちがい」は様々な場面で参加型学習として取り入れられている。ここでは、男女のちがいの具体的な問題を、それは「あってもよいちがい」(文化や個性の多様性など)なのか、それは「あってはいけないちがい」(偏見に基づいた意識、差別など)なのかに分ける活動をおして、子どもたちに様々な気づきを促す学習とした。また、この「ちがいのちがい」は学級で日常的にでてくる問題について発展させて考えることもできる。日常あまり深く考えたことのないことでも、こうして「あってもよいちがい」なのか「あってはいけないちがい」なのかを考えてみると、様々な人権問題につながることに気づくことができる。

4. 指導計画(全1時間)

5. 本時の学習

(1)目標「性別に基づく偏った意識」にとらわれず、「自分らしさを大切に生活することが大切である」ことに気づく。

(2)展開

学 習 活 動	指導上の留意点(○)と評価(◎)
<p>1. 教師が示した物の使い道をグループで考え、用紙に書きだす。</p>	<p>○この授業における「その人らしさ」について、まず「自分らしさ」とは何か考えさせる。</p>
<p>一つの事柄についても、人によっていろいろな考え方があることを知る。</p>	
<p>2. ・日常生活の中で、「女の子なのに」、「男の子だから」といって、違いをつけられたことはないか思いだす。 ・ワークシートの①～⑥の事例について「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」のどれにあたるかをグループで話し合い、それぞれの理由を含めて、クラス全体に発表する。 ・各グループの発表を聞き、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」について気づいたこと、わかったことを個人でまとめる。 ・「あってはいけないちがい」を解決する方法や対処の仕方について、グループで考え、クラス全体に発表する。</p>	<p>○ワークシートを配布する。</p> <p>○自分とちがう人の意見にも耳を傾けるように促す。</p> <p>○児童の多様な意見を取り入れる雰囲気作りをする。</p> <p>○全グループの発表後に、グループでは気がつかなかった感想について発表させてもよい。</p> <p>回答(想定) ① × ② ○ ③ × ④ × ⑤ ○ ⑥ ○</p> <p>解説 ①③決めつけられる場合は×だが、さまざまな意見が出てくることも予想される。しっかりと受け止めたい。 ④「励ます」ということから意見が出る可能性もある。まとめ方に注意したい。 ⑥事前に女子からも選ぶ必要がないか確認したほうがよかったなどの意見が出る可能性がある。</p>
<p>3. 発表された意見をもとに、今後、自分が実践しようと思ったことを書く。</p>	<p>○学級で日常的にでてくる問題についても、それが「あってもよいちがい」なのか「あってはいけないちがい」なのかを考えることができることを知らせる。</p>
<p>4. 学習をふり返る。</p>	<p>○授業をとおして児童から出された感想や記述をもとに、ねらいをおさえ、まとめる。</p>

ちがいのちがい！

() 年 () 組 名前 _____

1. これまでに、「女の子なのに」や「男の子だから」といってちがいをつけられたことがなかったか思い出して、その経験があれば書きましょう。

2. ①～⑥の「ちがい」について、

○…あってもよいちがい ×…あってはいけないちがい

△…どちらともいえない それぞれ記号を記入し、理由を書きましょう。

		○×△	理由
①	キャンプでグループの男子が火をたき、女子が野菜を切ると決めた。		
②	マサヤさんはカレーライスが大好きだが、ヨシコさんはあまり好きではない。		
③	グループで荷物運びをするのは、男子と決めた。		
④	泣いている男子に同じクラスの女子が「男は泣くもんじゃないよ」と言ってはげました。		
⑤	アミさんはスカートが好きだが、ユカリさんはズボンが好きだ。		
⑥	クラスの委員を5人決めようとしたら立候補した男子のみで決まった。		

6. 板書



学習後のふり返り

- ・クラスで決めごとをするときは、男の子・女の子関係なく、自分のやりたい事を言おうと思った。
- ・男の子だって泣きたいときもあるだろうから、そんなときは「だいじょうぶ？」と声をかけたい。
- ・男の子だっておしゃれをしたいかもしれないし、女の子もかっこよくなりたいと思っているかもしれないと思った。
- ・女の子やのに…と言ったことがあるけど、これからは言わないように気をつけたい。
- ・お母さんの友だちで見た目は男の人だけど、中身は女の人がいる。それも個性だと思った。
- ・これからは、ほかの人の考えにとらわれず、自分のことは自分で決めようと思った。
- ・人によって好きなものはちがうから、注意するのではなく受け止めたい。
- ・男の子がスカートをはきたいかもしれないし、人それぞれだから気にしなくていいと思った。
- ・これまでの生活を振り返ると「男の子やのに」「女の子やから」と言われたことがたくさんあると感じた。人それぞれ好きなものはちがうから、否定するのはだめだと思った。
- ・これまであまり気にしたことがなかったけど、これからはその人がしたいことを尊重するのが大事だと思った。
- ・これから、男の子だから…女の子だから…と言われることがあったら、決めつけずにその子の好きなものを受け入れるよう声掛けしたい。
- ・これからは、相手に自分の好みを押し付けないでおこうと思った。
- ・今日の学習を通して、男の子でも泣いていいんだと思えた。
- ・もし女の子だから…とか男の子だから…と言っている人がいたら、やさしく注意したい。
- ・人それぞれ個性があるから、個性を大事にしたいと思った。